



Marubeni Nisshin Feed

Corporate profile



食の絆を未来へ

 日清丸紅飼料株式会社



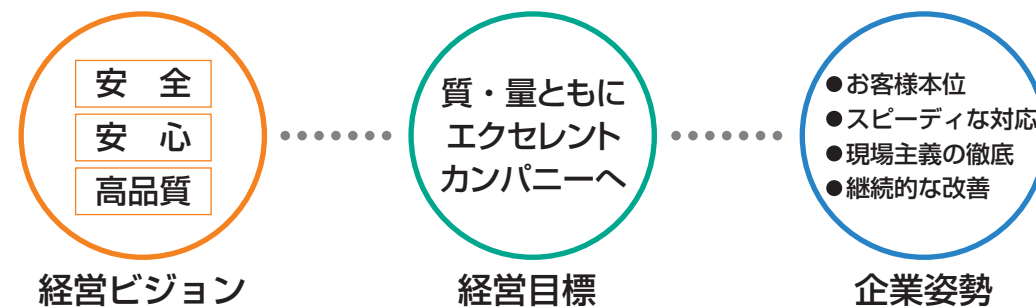
食の絆を未来へ

私たちは飼料を通じて安全・安心な食生活をサポートします。

日清丸紅飼料は、食文化の一翼を担う企業として、安全、安心で高品質な飼料及び関連商品の生産・販売を行うとともに、コンプライアンスを徹底し「食品の安全性の確保」に寄与します。

また、経済合理性の追求とサービスの提供を通じて顧客と共に繁栄することにより、常に成長志向を持ち続け、信頼性の高い企業として「社会に貢献」します。

日清丸紅飼料は
トータルな企業力を目指します。



代表取締役社長
宮内 和広

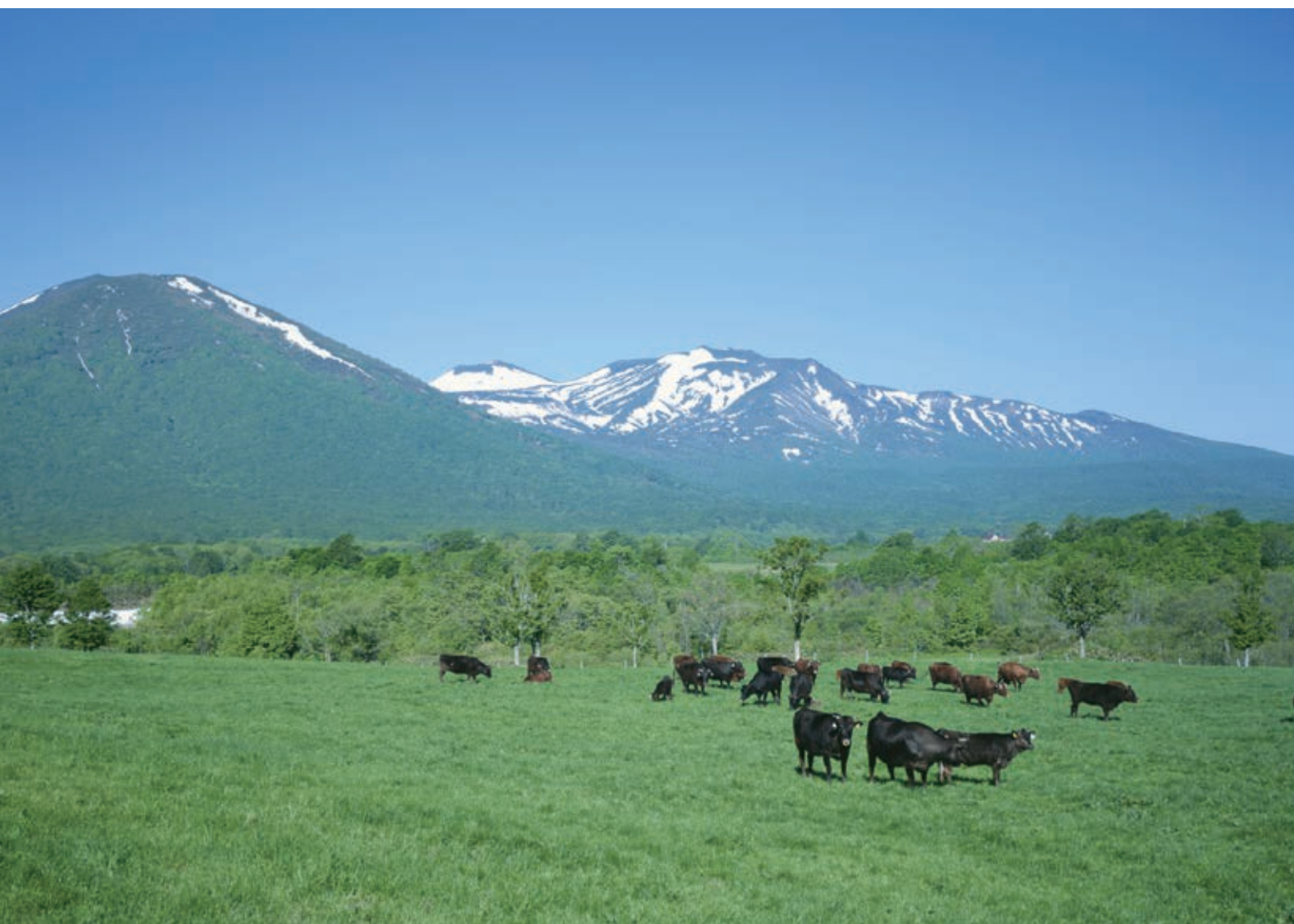
近年アジア諸国の経済発展に伴う所得向上や世界的な人口増加により、食料に対する需要が高まっております。なかでも新たに経済発展を遂げた国々の富裕層による畜産物・水産物の消費は今後更に増加することが確実でありそれらの生産に必要な配合飼料の需要も伸びることが予想されます。わが国では配合飼料原料の大半を海外に依存していることから、国際的に原料調達動きが強まるなかで国内畜産業・水産業を守るために安定的な原料確保が求められております。このような国際環境の変化に柔軟に対応し、お客様のニーズにお応えするために何をすべきか、社員一同で意見を出し合い最善の答えを見つけていきたいと思っております。

また、食の安全に対する消費者の意識は今後も高まっていくものと予想され、今まで以上に食の安全・安心が求められるようになって考えています。消費者のニーズに応えられる高品質な配合飼料をお客様にお届けし、食品の安全確保に寄与することは当社の使命です。安全・安心で美味しい畜産物・水産物の生産をサポートすることで消費が拡大し、国内畜産業・水産業が一層発展できるよう社員一同業務に邁進してまいります。



畜産飼料事業

安全・安心で競争力のある製品は、
高い評価をいただいています。



全畜種を網羅した配合飼料の供給はもとより、充実した顧客サポート、独自の機能性原料を生かした幼動物用飼料を含む多彩な製品ラインアップにより、生産体系、育種動向に応じた畜産経営に役立つプログラムを提供しています。



▶ 畜産飼料主要製品

高品質が要求される乳牛、肉牛の
成育を業界No.1の業績で応える
養牛用配合飼料



子牛用：ハーブ原料の配合と新技術のサラサラ製法により自動哺育機にも対応した代用乳です。

乳牛用：バイパスアミノ酸技術を組み込んだ配合設計がトップクラスの酪農家に好評をいただいています。

肉牛用：品種や産地に合わせた豊富な配合メニューを取り揃えています。高品質肉牛用飼料に関しては、毎年開催する全国霜降り牛研究会の事務局となり、会員相互の飼育技術の研鑽、飼料の品質向上に努めています。

発育ステージを考慮した配合設計
養豚用配合飼料



発育ステージごとに豚が要求する栄養量を考慮した上で、お客様の求める豚肉づくりに対応できるよう幅広い銘柄をそろえています。ハーブの作用でより健康な家畜に育てることをコンセプトとした子豚用人工乳「ハーブ育ちシリーズ・育て上手」や、抗生物質や合成抗菌剤を使用しない配合飼料は当社独自の製品です。



消費者に喜ばれる
「こだわりのある」卵を生産する
採卵鶏用配合飼料



大規模集約的飼育方法と多角的試験研究から生まれた高性能飼料です。少ない飼料で高い産卵率を長期にわたり持続させ、経済効果を高めます。また、サルモネラ対策プログラム、高品質卵用飼料（ハーブ卵・K2）など、消費者が安心できる品質の高い鶏卵を生産する飼料を提供しています。

鶏種特性を生かし優れた肉質を実現する
ブロイラー用配合飼料



原種鶏（チャンキー種）の輸入から鶏肉の販売までを完結する丸紅グループインテグレーションの中核としてブロイラー用の飼料品質には絶対の自信があります。鶏種の特性を最大限引き出せるよう工夫を凝らした配合飼料を提供しています。



「MNFIS」初期画面

▶ 顧客サポート

技術サポート



お客様ごとの最適な飼料及び飼料体系の検討、ご要望にお応えできる製品改良など、家畜栄養学の専門性と開発力を有する社員が営業担当に同行し、お客様の課題解決に向けた提案活動を行います。

家畜疾病診断サービス
システムバック



「システムバック」は当社が蓄積した防疫管理ノウハウを凝縮し、パッケージ化した家畜の定期健康診断システムです。お客様の大切な財産である家畜を疾病から守ります。

農場生産管理ソフト **MNFIS**



「MNFIS (Marubeni Nisshin Farm Information System)」は、様々な観点から農場成績を導き、お客様の成績改善の手助けを行う生産・育成管理ソフトです。





水産飼料事業

独自の技術で業界を大きくリードする トップ集団



日清丸紅飼料はさまざまな魚種、種苗生産用から成魚用までの多彩な製品ラインナップでお客様の魚づくりを支援しています。当社の水産用配合飼料の国内シェアはNo.1。特にウナギ用飼料のシェアは38%、タイ用は25%に達します（2019年度（一社）日本養魚飼料協会）。シラスウナギ餌付け用飼料「イトメイト」、幅広い魚種・ステージに応用可能な海産種苗用飼料「おとひめ」など独自性の高い製品は国内外で非常に高い評価をいただいています。

また、飼料の効果的な使用方法や魚病対策の指導など常に生産現場に立った活動を基本としています。今後はSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）に貢献できる事業を目指します。



おとひめ®シリーズのイメージキャラクター

▶ 水産飼料主要製品

種苗用飼料	●ブリ	●マダイ	●ギンザケ
海水魚用飼料	●ヒラメ	●トラフグ	●カンパチ
	●アジ	●クロマグロ	他
淡水魚用飼料	●ウナギ	●アユ	●ニジマス
	●コイ		他

卵から成魚まで一貫した管理の ギンザケ・トラウト生産システム



安全・安心なギンザケ、トラウトを供給するためトレーサビリティが明確にできる体制を整備しました。配合飼料だけでなく、提携先からの発眼卵輸入、稚魚の供給、生産現場への技術指導を行っています。



給餌風景



ジャイアントツナEP-30



銀鮭の発眼卵

日本を代表する海産種苗用飼料

おとひめ、ニューアルテック



「おとひめ」「ニューアルテック」は栄養成分を損なわない特殊な造粒方法で製造され、自動給餌機による給与も可能な種苗用飼料です。仔稚魚の健康維持が期待され、生産効率の高い養殖を可能にしました。

仔稚魚：卵からふ化したばかりで鰭などの体の構造が未発達の状態を仔魚、体のサイズは小さいが成魚と同じ体の構造まで発達したものを稚魚と呼びます。

シラスウナギ餌付け用飼料

イトメイト



シラスウナギ餌付け用飼料「イトメイト」

「イトメイト」はシラスの成長に不可欠な栄養素を兼ね備えたペースト状の飼料です。抜群の嗜好性を使い勝手の良さから高い評価をいただいております。

クロマグロ用飼料

鮪心(まごころ)・ジャイアントツナEP



クロマグロ養殖が注目される中、一貫生産で使用できる配合飼料を目指し開発されました。人工種苗生産用「鮪心(まごころ)」は特殊な原料を使用、育成用「ジャイアントツナEP」は養殖現場のニーズにマッチした最大径35ミリの大口径EPをラインナップするなど、長年の研究で培った研究成果と製造技術が詰まった飼料です。



海産稚魚の健康増進

ピアゴールド



「ピアゴールド」は、マダイ・ブリなどの海産稚魚の健康増進、稚魚移動時、降雨時などのストレス対策として、新しく開発した天然の植物多糖体を含む栄養強化飼料であり、海産稚魚の種苗生産、沖出し用等として使用されます。

魚類の健康増進に重要な役割を果たす天然の植物多糖体を豊富に含有する南瓜の種皮末、甘草粉末、オオバコの種子末、スイカズラの花末を配合し、さらに、養殖魚の病気に対する抵抗性を高める効果が期待できるビタミンE及びCも強化した製品です。

研究開発

お客様の経営向上に寄与する 研究開発

お客様の経営・利益に寄与することを目的に、独創的で競争力のある製品・プログラムの研究開発を進めると共に、畜水産技術、疾病対策など広範囲の技術支援を行います。

日清丸紅飼料の研究開発の 目的

- 消費者の安全・安心
- 環境面への配慮
- 家畜・養殖魚の健康と品質向上
- 高付加価値水畜産物作出
- 生産効率の向上

日清丸紅飼料の研究開発における 3つの基本方針

- 消費者の安全と健康を守る高品質な畜水産物を開発し、生産技術を提供する。
- 畜種魚種や環境に適合し、最大の生産効率の得られる飼料及び関連技術を提供する。
- 競争力のある製品・商品と技術を開発し提供する。

総合研究所

総合研究所は気候に恵まれた栃木県那須塩原市に位置します。配合飼料や畜産物の研究・開発を行う開発グループと病理検査や理化学分析を行う検査グループからなります。



総合研究所

開発グループ

鶏、豚、牛の栄養生理に関する基礎研究、及びそれに基づく飼料やサプリメントの開発、改良を行います。

飼料と畜産物の品質との相互関係、より有利に差別化できる畜産物の開発及び新規原料の探索、製品の品質管理向上も重要な研究テーマです。

検査グループ

お客様から預かる検体の病理検査や「システムパック」、配合飼料及び原料の栄養成分の理化学分析を行います。

蓄積したデータは重要な情報としてお客様に役立てていただいています。



牛舎での飼養管理



病理検査作業

研究者の 声



総合研究所では、様々な専門分野を持つ研究者が、現場密着で日々動物と向き合いながら、より高性能で安全・安心な独自製品の開発を進めています。

水産研究所

水産研究所では、養殖水産物の品質を向上させる配合飼料の開発の他に、現場で飼料が最大効率を発揮するための養殖技術を研究しています。愛知県・渥美半島の先端、三河湾に面した地下海水の豊富な場所に位置し、実際に養殖魚の飼育・生産を行いながら現場に即した研究開発を行っています。



水産研究所内施設

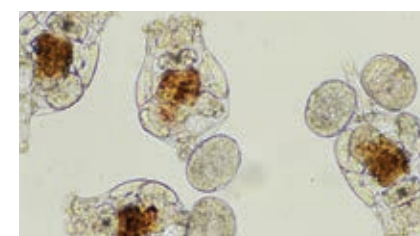
水産研究所の概要

所内には種苗生産棟と成魚育成棟があります。種苗生産棟では「おとひめ」「ニューアルテック」「鮪心」などの種苗用飼料に続く新しい飼料の開発が行われています。成魚育成棟では飼料の改善試験や高品質養殖魚を生産するための飼料の開発を行っています。また、「持続可能な養殖業」の実現に向けて魚粉代替原料の研究を行うなど、これからの時代の養殖に対応するための取り組みを行っています。

水産研究所は常に新しい視点で研究開発を続け、業界に新風を巻き起こします。



トラフグの稚魚



ワムシ：ふ化後間もない仔魚に与える初期餌料

研究者の 声



水産研究所から、これまで多くの製品が誕生しました。魚の成長過程において、いつ、どのような栄養成分の飼料を与えるかは、魚の成育・品質の鍵になります。養殖魚に関する研究の他、飼料原料、飼料製造技術、給餌方法などの研究を通じて新しい製品が開発されます。

安全、安心の生産体制

全国の生産拠点全てにおいて、安全・安心 に向けた生産体制の維持・増強を進めています。

自社工場5箇所と子会社・関連会社を含め全国14箇所に生産拠点を有し、フードチェーンの一員として食の安全、食卓の安心に貢献する生産体制を構築しています。

■ISO22000取得：2013年5月、配合飼料メーカーにおいて日本で初めて食品安全に関するマネジメントシステムの国際規格ISO22000を認証取得しました。飼料も食品であるという考えに立ち、品質管理、製造工程管理を徹底しています。

■農水省ガイドラインに基づく飼料等の適正製造規範（GMP）取得推進：既に自社基幹5工場（知多工場、鹿児島工場、碧南工場、鹿島工場、小樽工場）とJV工場（八代飼料、とかち飼料、釜石飼料）で取得しています。

■BSE対策：反芻動物用飼料と単胃動物用飼料における生産ラインの明確な分離を行っています。



鹿児島工場

畜産

原料受入

- ロット毎の栄養成分、サルモネラ菌検査の実施。
- 原料を工場内タンクに貯蔵する前に篩や強力磁石を設置して異物（金属や小石）を除去



原料の搬入

原料粉碎・篩分

- 適切な粒度への粉碎・分級
- 蒸気釜やエキスパンダーによる熱加工処理（一部原料）



粉碎設備の掃除

計量・配合・液体添加

- 原料の計量は最新のFAシステムにより自動制御で運転され計量実績等も自動記録
- 抗菌性飼料添加物有添加飼料は専用ラインで製造



工場内 FAシステム中央操作室

二次加工

- ペレット、エキスパンダー、クランブルなど二次加工を施し消化吸収性向上
- 熱加工処理は消化吸収性の向上と糞尿量削減効果もあり、環境にやさしい飼料として注目
- 子豚用人工乳飼料：嗜好性と流動性向上のため特殊な造粒機により加工（鹿児島工場、鹿児島工場）
- 子牛用代用乳飼料（粉ミルク）：簡単にお湯に溶けるよう特殊製法により製造（株）日本ミルクプレイサー

包装・出荷

- お客様のニーズに合わせてバ、TB、紙袋の形態にて出荷
- 出荷前検査の実施
- 最終製品ラインへは異物混入防止のため金属検出装置を設置（一部）
- 先入先出の徹底、自動倉庫導入

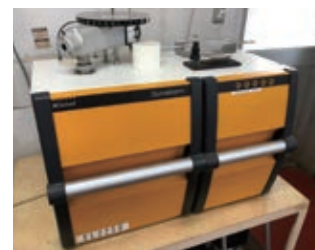


育て上手プレミアムコロミルク

水産

原料工程 原料切込 精選

- 主原料の魚粉はロット毎のサルモネラ菌検査の実施



栄養成分検査 燃焼法分析装置

配合工程 計量 ミキシング

- 配合設計に基づいて計量、ミキサーにて調合



工場操作室

粉碎工程 微粉碎 加工前粉碎、篩分

- 原料粉碎後、粒の大きさを一定にするため篩かけ
- 強力磁石を設置して異物を除去



解砕機

二次加工、造粒 乾燥、冷却 油脂添加

- 魚種や給餌形態に合わせ、ペレットミルやエクストルーダーでさまざまな形状に加工



エクストルーダーペレットマシン

製品 製品タンク 包装・出荷

- 最終製品ラインへは異物混入防止のため金属検出装置を設置（一部）



紙袋出荷

安全・安心、環境への取組



●太陽光発電装置（鹿児島工場）



●防鳥ネットを設置して防疫強化



●工場入出門の車両消毒設備の設置



●悪臭防止法に適合した脱臭装置の導入

その他の事業

お客様の経営の一助となるような様々な商品のご提供、
種豚の販売、生産物販売支援の取り組みを手がけています。

特殊商材

ミックス製品

夏季の暑熱ストレス対策、家畜の栄養補給、母豚の繁殖成績改善、差別化畜産物生産などの目的に応じて幅広い品ぞろえを用意しています。お客様のご要望に応じたカスタムミックスも提供しています。長年にわたって蓄積したノウハウを活かし、専用ラインで製造したミックス製品は当社の研究開発技術と製造技術の結晶です。

●ニューウシヘルス

ペレット状のビタミン・ミネラルのサプリメントです。ビタミンA・C・Eの相乗効果で牛のストレス対策が飛躍的に高められます。



ニューウシヘルス

●トリスカッシュ

暑熱条件下の鶏に当製品を飲水投与することで、暑熱ストレス緩和を促し、生産性向上に寄与します。
高温（猛暑）が予想される当日に給与でき、溶解しやすいのが特徴です。



トリスカッシュ

●母豚ミラEミックス

- 妊娠期・授乳期の母豚に不足しがちなビタミンE、ミネラルを豊富に含有しています。
- 利用性に優れた有機ミネラルを採用することでより効率的に栄養素の補給が行えます。
- 夏場の食欲低下時にも効率的な栄養成分の補給が行えます。
- 近年の産子数増加傾向にも対応するため、生殖器および蹄の健全性維持のサポートに役立ちます。
- トータル離乳重量のアップが期待されます。
- 授乳期母豚の栄養不足によるダメージを軽減することで、再帰日数の短縮、次産時の成績安定化、母豚の耐用年数アップ等が期待されます。



母豚ミラEミックス

種豚事業

高能力種豚「PIQUA」(ピクア)

当社は高能力種豚PIQUA（ピクア）の総代理店として、種豚事業を通じて養豚生産者の皆さまの経営に貢献してまいります。PIQUA（ピクア）は繁殖能力に優れるとともに、生産された肉豚は良好な増体を示し、安定した品質の枝肉生産が期待できます。強健性・連産性に富み、飼料要求率に優れ、性質も温順な種雌豚です。
生産は当社関係会社であるピクアジェネティクス株式会社が担っています。



●日清丸紅飼料株式会社とピクアジェネティクス株式会社は、英国最大の種豚メーカーであるJSR Genetics社と技術提携を行っています。育種素材の輸入、技術交流等を通じて常に育種改良に取り組んでいます。

差別化畜水産物

ハーブ村

ハーブは昔から人々の健やかな暮らしに役立てられてきました。この医食同源の考えを飼料に取り入れて、ハーブの力を美味しい食材作りに活かしました。当社はハーブ配合の飼料で育ったハーブ畜水産物に関する皆様を、ハーブ村というブランドでサポートしています。

ハーブ村を代表するハーブ豚は、4種類のハーブ（オレガノ、シナモン、ジンジャー、ナツメグ）を配合した純植物性飼料を給餌した豚肉でハーブの風味により特有の臭みが抑えられ、豚肉本来の甘みが引き立つ繊細な味わいです。

1997年の発売開始以来、一流のレストラン、ホテル様などから高い評価をいただいています。



たんとん

皆様に“た〜んと”食べて欲しい。

そんな思いで国産二元豚『たんとん』は生まれました。

『たんとん』は一般豚と比較して低カロリー、低脂質が特長です。関連農場で大切に育み、飼料会社だからこそその安全・安心を実現します。「Farm to Fork, Face to Face」をコンセプトに、食卓へ笑顔と栄養をお届けしています。





日清丸紅飼料はお客様の身近なパートナーとなるために
コーポレートマークとキャッチフレーズに込めた思いとともに
信頼されるリーディング・カンパニーを目指します。

標章 (コーポレートマーク)



日清丸紅飼料の標章(コーポレートマーク)に込められた思い

日清丸紅飼料は、食文化の一翼を担う企業として、安全・安心で高品質な飼料及び関連商品の生産・販売を行うとともに、コンプライアンスを徹底し「食品の安全性の確保」に寄与する。ことを経営理念に掲げています。

コーポレートマークは日清丸紅飼料、MN-feedの頭文字「M」と「N」の形を使い、食文化に携わる企業として、世界へ羽ばたく鳳凰をイメージしています。食の安全を守り、お客様に信頼と安心を運ぶ鳳凰です。

全体にやわらかくそして優しい曲線は、お客様や従業員同士など、人と人とのつながりを大切に、発展していく願いが込められています。

コーポレートカラーである「日清丸紅飼料レッド」はお客様の満足と、日清丸紅飼料の限らないエネルギー、そして飛躍を表しています。

標語 (キャッチフレーズ)

きずな
食の絆を未来に

日清丸紅飼料の標語(キャッチフレーズ)に込められた思い

食文化の一翼を担う企業として、安全・安心で高品質な飼料及び関連商品の生産・販売を行い「食品の安全性の確保」に寄与する。という当社の経営理念と、その大切な絆を将来にもつなげたいという思いがこの標語に込められています。

ISO22000飼料安全マネジメントシステムにおける 飼料安全方針について

※ 2013年5月 当社は国内飼料メーカーとして初めてISO22000の認証を取得しました

多様化する輸入原料や、ますます高まる食の安全性確保の重要性に対応するため、全社でISO22000の認証を取得し、HACCP原則に基づくハザード分析とリスク管理を的確に実施する統一したシステムの運用管理を行っています。ISO22000の飼料安全マネジメントシステムの中で以下の方針を掲げ、社内での着実な実施と継続的改善に取り組んで参ります。



① 鹿島工場の外観 ② 清掃作業(碧南工場) ③ 数字の持つ意味を考えながらの記録作業(小樽工場) ④ EPの仕上がり確認作業(鹿児島工場)
⑤ 碧南工場の外観 ⑥ 知多工場の外観

<飼料安全方針>

当社は飼料の安全を経営の最重要課題と考え、次の方針に基づき事業活動を行います。

1. フードチェーンを構成する一員である飼料製造業者として、より高度に安全で品質の良い配合飼料を常に製造・供給することを第一と考え、我が国の畜水産物生産者の発展、消費者の健康及び環境への配慮に貢献致します。
2. 飼料安全を確実にするため、飼料安全法をはじめとするあらゆる法的・規制要求事項や飼料等の適正製造規範(GMP)ガイドラインを順守するとともに、お客様の高度な飼料安全・安心に関する要求を満たす製品及びサービスを継続的に提供致します。
3. 飼料の安全に関する正確な情報をお客様にご提供するために、当社各部門において、お客様、原料及び資材の供給元、製品供給先、行政機関等の関係者の皆様と常に親密な対話を行い、様々な課題に積極的に取り組みます。また、苦情発生情報などの収集・分析を行い、お客様の要求事項を把握し、製品品質・サービスの向上と予防・再発防止に努めます。
4. またBCPの観点から、自然災害(台風、洪水、大地震)による被害や、火災、停電などの緊急事態対応にも取り組みます。
5. これらの安全方針を確実に実行するため、社内において研修などの社員教育を定期的を実施し、従業員の力量を向上させるとともに、社外に周知するための広報活動などを確実に実施致します。
6. この飼料安全マネジメントシステム(FeSMS)及びFSSCシステムが確実に機能するよう、マネジメントシステム全体と実際の業務運用におけるPDCAサイクルに沿って適宜検証、分析・評価し、マネジメントレビューを行い、継続的に改善致します。

食の絆を未来へ



日清丸紅飼料株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町四丁目5番1号

さくら室町ビル4階 TEL (03) 5201-3230

URL <http://www.mn-feed.com>